

発行責任者  
公益社団法人隊友会 神奈川県隊友会  
湘南支部長 清崎 忠園  
平塚市豊原町 23 - 14  
Tel(Fax) : 0463-31-6718



# 隊友

## 湘南支部ニュース

国民と自衛隊との架け橋！

「東京電力福島第1原発処理水の海洋放出の英知と決断力」を如何に応用するか。

湘南支部長 清崎忠園

**東京電力福島第1原発(以降「福島第1原発」)処理水の海洋放出に対する中国の糾弾**

・8月24日放出開始現在、第1原発の敷地内には千基以上のタンクがあり多核種除去装置(ALPS)を通じた約134万トン処理水などが貯蔵されている。第1回目の放出はその内の約7,800トンを海水で十分に薄め17日間で放出した。今年度は計4回の放出で約3万1,200トンを処理水として海洋放出の予定である。

・今回の福島第1原発の処理水放出は、菅義偉前総理の決断があったことは申すまでもない。その決断を現岸田文雄総理が引き継ぎ、保管タンクの保安上待ったなしの8月24日実行に移された。当初福島の漁業関係者らの猛烈な反対運動があり、それは全国漁業関係者をはじめとする反対運動に拡がり、各メディアが取り上げた。更に中国政府は、我が国及びIAEAの科学調査、分析結果にも拘らず「核汚染水」と吹聴すると共に我が国からの全面的な水産物禁輸策を取り続けている。この状況をWTO(世界貿易機関)に提訴すべきであるが岸田総理の決断は今のところ無い。

・一方、我が国の対中国水産物禁輸による影響に関しては現在ほとんどニュースとなっていない。政府

を中心にあらゆる対応がなされ、あらゆる分野で処理水の処置に対する協力体制が整い、漁業関係者は本来の漁業に信頼感を得ていると言える。このような中、ロシアは中国にべつたりの水産物禁輸に踏み切ったが、政治的な思惑が感じられる。世界の情勢、常識を読み取る感覚もない類は類を呼ぶ感である。お陰で、我が国はあらゆる分野で対中国、ロシアとの貿易、生産拠点の見直しを行い産業面での安全保障政策が軌道に乗って来ている。

**IAEA総会における福島第1原発処理水問題での我が国の毅然たる態度**

高市早苗科学技術相は中国政府からの非科学的な「核汚染水」攻撃に対し、「日本はIAEAの関与の下で処理水を放出し、国際社会へ丁寧に情報提供してきた」と説明し更に「IAEAに加盟しながら事実に基づかない発信をし、突出した輸入規制をしているのは中国だけだ」とも述べ中国政府のおかしさを際立たせたと一部マスコミで評価されているが正鵠を得た評価である。

・報道によれば、中国のSNSで中国の原発が福島第1原発よりはるかに多くのトリチウムを放出しているとの正しい情報が投稿されると削除し、誤った情報しか自国民に与えていない様である。また、中国政府の「核汚染水」と言う誠に非科学的な表現に対する中国国民の賛同活動は確認されていないようでもある。これらの影響を考慮して

か9月21日の国連総会での一般討論演説で韓正国家副主席は処理水には触れなかった。これは中国の思惑に反し、国際社会では処理水を「核汚染水」とでたらめな日本非難に対する思惑が受け入れられていない事があると思われる。

**福島第1原発の処理水放出に対するあらゆる糾弾対策手法の適用——靖国問題**

・喫緊の課題は靖国問題である。二百四十六万六千余柱の英霊が祀られている靖国神社をどうして我が国の総理が機会あることに参拝しないのか、できないのかの問題である。

世界の国の中にはその国の歴史を知らない理不尽な主張をする国があるものであるが、それに押しまわられて何も手出しができない事であればその国は「与しやすい国」、「脅せば何もできない国」として現状の中国、ロシアのような「武力、金力をはじめとし国際法違反であるが、力による現状変更」を辞さない国のいわば属国的な存在となる恐れがあることは目に見えてい

る。尖閣諸島、北方四島問題も同じである。8月には中国政府は「新しい地図」を発表し「法の支配」を蔑ろにする現状変更の意図である。全世界からの反発は言うまでもないが、このようなことを積み重ね既成事実化を狙うのである。尖閣諸島もその対象となりつつある。

・福島第1原発の処理水放出の科学的根拠に基づく手法、データを駆

使しあらゆる関係諸国に相当前から説明、協力を働き掛けておりIAEA総会、国連総会等の場で中国の「核汚染水」発言はほとんど無視された感じである。即ち、克明な自国の研究、国際機関との調整、国内関係諸団体等との意見交換等を相前から実施し処理水放出の成功に辿り着いていることを肝に銘じ、靖国問題にどのような取り組むべきかを考えねばいつまでたっても総理の「真榊」と言う供物奉納で終始できる問題ではない。総理自身が参拝せねば意味がない事である。そのため2年ぐらゐの歴史的、民俗学的、神道学的な幅広い研究からのどのような根拠を基に全世界に我が国の主張を明確にし、その正しさを説明することにより総理参拝の解決の糸口とすべきである。祖国の英霊に頭を垂れない首相、大統領はいない。

・わが国総理による靖国神社参拝の実現は、喫緊の課題である。岸田首相は10月17日靖国神社の秋季例大祭に、「内閣総理大臣 岸田文雄」の名前で真榊(供物)を私人の立場で奉納したが、19日までの例大祭期間中は参拝を見送るとし実施していない。17日、国務大臣として新藤経済再生担当相、高市経済安全保障担当相が、例大祭前の16日には衆議院議員として西村経済産業相がそれぞれ私費で参拝している。



中東情勢

支部理事役 深澤文晴

10月7日、パレスチナのハマスがイスラエルへの攻撃を開始したことで始まった中東の紛争。米国は2つの空母打撃軍と海兵隊二千人を東地中海に派遣して、バイデン大統領がイスラエルの地上侵攻への黙認を取り付けようとしている中東外交の失敗に備えている。

18日にヨルダンで予定されていた、バイデン大統領とアラブ諸国の指導者との首脳会談がキャンセルとなり今後の雲行きが怪しくなった。

同日、ロシアのプーチン大統領が、北京で行った記者会見で、極超音速ミサイル「キンジャル」を搭載したミグ31戦闘機によるパトロールを黒海の公海上で開始すると明らかにした。中東情勢の緊迫を受けて空母2隻をイスラエル沖に派遣した米国に対する示威活動である。プーチン大統領は「速度マッハ9、射程千キロ以上」とキンジャルの性能を強調して地中海が射程に入ることを示唆している。またレバノンのヒズボラとイスラエルの紛争も拡大している。

19日、イスラエルに近い紅海北部で米駆逐艦が3発の巡航ミサイルと複数の無人機を迎撃した。いづれもイエメンから発射したもので、イスラエルを標的とした可能性があると判断された。

21日にエジプトのカイロで「カイロ平和サミット」が行われた。会議ではヨルダン、南アフリカ、エジプト、サウジアラビアなど各国からガザで軍事侵攻を続けるイスラエルへの厳しい非難の声が相次いだ。パレスチナの後ろには、イラン、シリア

アなどアラブ諸国や中国、ロシアが控えている。また、イスラエルの後ろには英米が控えている。大きな戦争にならない事を祈るばかりである。

令和5年度特集 予備自衛官について

第4回 「防衛の重要な戦力」

支部理事役 深澤文晴

自衛官の募集・採用を取り巻く環境は厳しさを増している。こうした状況の中で、大きな期待をかけられているのが「予備自衛官等」だ。普段は企業などに在籍し、有事には常備自衛官と同様に前線に赴く「即応予備自衛官」、駐屯地などで後方支援にあたる「予備自衛官」ら。それぞれに所属企業などの理解の下、招集訓練などへの参加を通し、いざというときに備えている。「国防」を担う貴重な戦力となっている予備自衛官等の現状を報告する。

国家の緊急事態にあたっては大きな防衛力が必要となるが、その防衛力を常日頃から保持するのは効率的ではない。防衛省では、平時は常備自衛官の防衛力

力に対応し、有事の際は予備の防衛力となる「予備自衛官等制度（予備自衛官、即応予備自衛官、予備自衛官補の3制度）」を取り入れている。予備自衛官は企業の一員として勤務しつつ、有事の際には自衛官として貢献する役割を担う。予備自衛官の招集実績は、平成23年3月に発生した東日本大震災での災害派遣が制度創設以来初めてだった。以降、同28年4月の熊本大地震や令和元年10月の台風19号災害、同2年7月の豪雨災害など7回の招集実績がある。

予備自衛官の確保は重要だ。現在の予備自衛官の人数は4万600人（即自41200、予備自3万3411、予備自補2529）3年度末時点。だが、このうち即自の充足率の低さが深刻だ。即自は定員の7981人に対し、現員は4120人と約半数にしか達していない上、10年前の平成24年度の65.9%という充足率から年々減少傾向にある。

予備自の確保は志願者の意思だけではなく、雇用する側の企業努力も不可欠だ。

予備自は年間で定められた日数の訓練に参加する義務があり、中でも即自は年間30日とハードルは高い。企業からすれば、限られたリソースで業務を回す中、訓練のために数日間も従業員に抜けられるのは厳しいと考える。ましてや有事の際は、予定されている訓練とは違い、突然招集される。

防衛省では、予備自雇用に伴う企業の負担をサポートするため、招集時の支援として雇用企業協力給付金を設けている。

また、雇用時の支援として「即応予備自衛官雇用企業給付金」制度を設置するなどの対応をとっている。

(防衛日報デジタルより)

令和5年度年会費納入者(敬称略)

湘南支部長(十月二十日現在)

次の会員各位から年度会費を納入していただきました。ご協力に感謝申し上げます。

正会員

濱口浩二、

支部会員による2024 第45回神奈川自衛隊音楽まつり協賛

湘南支部長(十月二十日現在)

多くの会員各位から協賛をいただいています。ご協力に感謝申し上げます。

(順不同・敬称略)

- 石川潤一、平川幹雄、岡崎光博、菅原政弘、田中了、府川太郎、尾上洋一、窪田朗、佐藤友昭、今井敬、荒木裕高、尾崎謙一、榎木実、高橋祥子、中尾眞、関克行、福楽勲、荻原洋聡、牧石健志、高見巖、廣瀬正実、市川和広、山岸征洋、小見山雅、其浦勇治、山内敏秀、喜瀬美恵子、高山雅司、金子勇二、青山元彦、渡辺一正、小池淑子、寺中哲夫、山本角八郎、三澤征治、長田博、松澤弘海、清崎忠罔、池田周平、藤間順一、水谷宏之、深澤文晴、川内美喜男、左奈田幸一、坪井圭一、平形武夫、山崎一男、高木幸夫、内藤晋二、堀井光男、福井繁、坂西厚隆、澤野憲二、遠藤武、蛭田信次、井岡成吉、松長泰幸、春日敏、中尾剛久、西村剛、日高昭、宮城覚映、中根圭介、濱口浩二、

「支部の予定」

- 11/04 (土) 第8回支部理事役会
- 11/11 (土) 安全保障トークサロン
- 11/22 (水) 11月隊友紙発送
- 12/09 (土) 第9回支部理事役会
- 12/上旬 広報官慰労・激励会
- 12/20 (水) 12月隊友紙発送
- 01/13 (土) 第10回支部理事役会

編集後記

10月7日、パレスチナのハマスがイスラエルへの攻撃を開始した。今後とも各種ジャンルに亘る、ご寄稿のご協力を宜しくお願い致します。